

飼育したもの。

兵庫県内では山間広葉樹林に広く分布していると思われるが、成虫出現期が遅く、且つ短かく、特にメスは成育場所から至近距離にある灯火にしか飛来しないため採集し難いものである。本種の食餌植物としてはこれ迄に針葉樹を含む多くの木本植物が知られているが、卵越冬種の特徴として、ふ化後間もない幼虫は好んで新芽を食う習性が著しく、以前、冬芽の未だ固いヤマナラシの小枝を与えたところただちに芽内に食入し、出て来て間もなく脱皮し第2令となった。筆者は未だ野外で幼虫を得たことはないが、当地山田町では、状況から推定して、食樹はコナラ（群生地に限る）と見るのが妥当だろう。

参考文献

- 2). 3). 東 正雄 京阪神の動物（六月社1965）
- 5) 富士原 芳久 新昆虫1956年9月号（北隆館）

(7-VIII-1981)

男鹿島のクロシオキシタバ

松本健嗣

クロシオキシタバ (*Catocala kuangtungensis* Mell) は1960年代にはたいへん珍らしがられた蛾であるが、今では東海以西のウバメガシ林には大抵いることが知られている。筆者が家島町男鹿島で本種を初めて採集したのは1967年7月23日であったが、のち1969年3月の山火事により島の山林の大半が焼失し本種も姿を消していたが、その後島の植生は徐々に複元し、本年（1981）7月24日に訪れた際本種2exs. を目撃した。なお盛夏時には樹液を求めて海を渡り 姫路方面（或いは小豆島）へ移動するものらしい。

西宮市角石町で採集した蛾類数種の記録

芦田 久

東六甲の山麓にある甲陽高校（西宮市角石町3-138）に通うようになって通学途中や学校内で多数の昆虫を得ることができた。蛾類は校舎3階の窓を1つ開け20Wブラックライトを2本取りつけ、